

流れて出た。

娘は夕暗の街の中に、弟と二人消えて行った印象が次に待ち構えていた苛酷な条件の抑留生活の脳裏に蘇り、生きる力を与えてくれた。生への執念は、全く娘の愛情と勇氣に支えられたとしみじみ思う。

二十一年七月七日、私は栄養失調の身体を、博多の国立病院に横たえて、歩行も不能の状態であった。それなのに、病院では、午後入院したのに、夕食も与えないので、夕食を要求したが駄目であった。ただ看護婦が私の私物ですと、乾麵包を一包くれたのみで、待遇は全く悪く、臨床の復員軍人の見舞客の女性から、握りめしをもらって、飢えをしのいだのです。

ちょうどその時、新義州にいた娘は、夜中、コックリさんに占いを立て、父の安否を占ったところが、お父さんは「病氣」、「ふくおか」に居ると出たので、お父さんの病氣が治るように、神様にお祈りしましょうと、母と弟妹たちに勤めて、いっしょに神に念じたという話を、十一月になって娘が無事朝鮮から引揚げて再会したときの話でわかった時に、父と娘との心の結びつきが、なん

だか目に見えぬ絆で結ばれていると感じた。

引揚げによって財産は失ったが、家族との信頼は深まって、得たものは大きいと思う幸せの日々である。

引揚者体験の一断面

岐阜県 下條 美 武

私の父、下條喜多造（本籍瑞浪市日吉町七八八番地、明治十四年三月三日生）は明治三十四年徴兵され、明治四十一年十月朝鮮駐留衛戍病院付きとして大正三年十一月迄勤務し、その後慶尚南道金海郡で営農を続けた。

このため私は韓正竜山水道町衛戍病院官舎で出生した。昭和七年釜山公立中学校を卒業し同時に徳頭公立尋常小学校組合書記となる。昭和九年十月六日満州国司法大臣官房文書科雇員として採用された。昭和十三年四月一日司法部属官兼新京地方法院書記官委任三等の発令を受け、同科で防諜及び審査係長を勤めた。昭和十四年六月一日北辺振興工作の一環として中央各部より若干名が各省に

派遣されることとなり、司法部からは私一人選ばれて三
江省公署に配置された。三江省長官房総務科文書官及び
企画係長並びに佳木斯地方職員訓練所講師となった。昭
和十六年八月より四か月間、満州国政府中央一般職員訓
練所第一部に入所訓練を受けた。昭和十七年八月一日三
江省富錦県総務課庶務係長兼審議室主任となる。昭和十
八年八月一日満州国事務官、薦任三等、興安北省長官房
人事科附兼海拉爾地方職員訓練所講師となる。

昭和十八年十月二十八日熊本県鹿本郡山鹿町一八五〇
番地、嘉悦モトエ(大正十年一月十四日生)と婚姻したが、
昭和二十一年二月八日齊々哈爾市豊恒胡同巷号浮虜收容
所で死亡した。昭和十九年二月九日長男正強を出生した
が、昭和三十年九月二十三日祖父母の元で死亡した。昭
和二十年九月八日齊々哈爾市官吏会館で二女恵美を出生
したが齊々哈爾浮虜收容所で昭和二十一年一月十五日死
亡した。昭和二十年三月一日興安北省長官房参事官室付
きとなり一般政務及び防衛担当となる。

昭和二十年八月八日国境警察隊よりソ連軍国間に侵入
攻撃中の旨連絡があった。したがって直ちに駐屯地司令

官塩沢中將に連絡をした。軍は即座に木村少將と兵一、
〇〇〇人を残し、他は総て汽車、自動車、馬車等動くも
のすべてを動員して興安嶺に引揚げた。塩沢司令官は翌
九日朝、省公署に来て地方人はすべて陣地に入って戦え
との指示をして興安嶺へ行った。

市内は早朝より敵機の猛爆激しく途方にくれるのみで
あった。汽車は勿論軍と鉄道員のみが使用して、帰って
くる見込みはなかった。たまたま機関士の経験者が居り
これを機関庫に派遣してようやく一台修理が出来たので、
これに貨車を曳かせ運搬することにした。女子従業員と
私の妻もこれに乗って引揚げることにした。

私共男子はそれぞれ警察官の武器(小銃)を入手し陣
地に入ったが、その前に秘密書類を焼却した事は当然で
ある。陣地は膨大な人造陣地で間部の完備には驚いたが
武器はなく、外に出るの地上戦は容易ではなかった。僅
かに夜の戦いのみである。かくして十五日の詔勅は流す
ことが出来ず、十七日になって司令官の決意によりよ
うやく白旗を揚げ降伏した。私は前夜の指示で敵戦車に
飛び込み爆破することになっていたので幸運の白旗でも

あった。

昭和二十年八月十七日ソ連軍の浮虜となり、十一月九日までソ連のための戦後処理に当った。十一月九日ソ連浮虜としてケームル アンゼルスカヤ浮虜収容所に収容され、昭和二十四年八月帰国までこの地において、除雪、農作業、鉄道工事、建築工事、煉瓦工場及炭鉱等の重労働、なかならず炭鉱以外の時には十数時間に及ぶ苛酷な労働を強制され、栄養失調、意識不明のまま収容された例もあり、筆舌に尽くし難い厳しいものであった。

昭和二十四年ソ連より舞鶴上陸で帰国した。帰国先は父の本籍地瑞浪市日吉町七八六八番地であった。

昭和二十五年九月三十日土岐郡駄知中学校長が来宅され、同校勤務を勧められたので承諾し服務した。昭和二十六年一月一日岐阜県教育委員会土岐地方事務局に勤務した。昭和二十六年三月十七日土岐市泉町定林寺八番地、高橋元吉二女高橋和恵（大正八年十一月三日生）と婚姻した。昭和二十八年九月十五日岐阜県教育委員会事務局学務課免許検定係長となる。昭和三十年一月一日土岐市駄知町山津製陶株式会社専務を昭和五十年五月三十日まで

で勤めた。昭和五十一年十月より土岐市土岐津町高山工業（建設業）の囑託、昭和五十二年十月より土岐市妻木町日研工業（油薬製造）の囑託、昭和五十三年十一月より土岐市泉町石黒商事（燃料製陶用具販売）の総務部長を昭和五十年二月まで拝命し、これをもって他への就職は一切しないことにした。

悲惨な引揚者

子々孫々に再びとさせたくない

長野県 金子 一

海外居住の動機と家族状況

私は郷里の村役場に勤務して居りましたが、昭和二十二年朝鮮巡査の募集があつて、村の駐在巡査が役場に來て之に応募する様にと薦められ私は長男でありましたが弟が一人ありました。この弟に家を相続させる事にして當時満蒙開拓青少年義勇軍とか移民とか五族協和王道楽十建設の理想を掲げての国家的大事業によって農村の不況